京都に伝わる民俗芸能の「現在（いま）」を知る。

民俗芸能∞交流サロン

Folk performing arts Salon

令和6年（2024年）

7.6 土

14:00〜16:30

開場・受付 13:30

京都芸術センター講堂

京都市中京区室町蛸薬師下る山伏山町546-2

参加無料 定員100名

シンポジウムと実演

オープニング　原谷弁財天太鼓 実演

トーク 第壱部　京都の民俗芸能の歴史と現在

講師　**加納 敬二**氏 Kanoh Keiji

嵯峨大念佛狂言保存会事務局長

1951年、京都市に生まれる。1988年、嵯峨大念佛狂言（以下、嵯峨狂言）保存会に入会し、活動をはじめる。2008年京都市芸能功労賞を受賞。現在は保存会事務局長。伝統芸能の保存・活用に尽力し、嵯峨狂言の講演や出前授業なども行っている。本職は市埋蔵文化財研究所で40年間、市内の埋蔵文化財の発掘調査・研究を担ってきた。現在は市考古資料館の展示解説ボランティアとして活動している。

トーク 第弐部　獅子舞クロストーク

獅子舞を担う若手の声を聞く

千本ゑんま堂大念佛狂言
田尻 拓氏
嶋 泰智氏

×

原谷弁財天獅子舞
前原 一成氏
小林 陽平氏

トークと実演　京都の民俗芸能「念佛狂言」から表現を学ぶ

トーク　**浅野 高行**氏 Asano Takayuki × **戸田 義雄**氏 Toda Yoshio

京都郷土芸能「活性化してやろう」会会長　せんふな会会長（ゑんま堂狂言顧問）

実演
- 「牡丹獅子」千本ゑんま堂大念佛狂言
- 「獅子舞」原谷弁財天獅子舞

主催：京都郷土芸能「活性化してやろう」会
共催：伝統芸能アーカイブ＆リサーチオフィス
（京都市、公益財団法人京都市芸術文化協会）
協力：嵯峨大念佛狂言保存会、千本ゑんま堂大念佛狂言保存会、原谷弁財天太鼓保存会・獅子舞保存会

TAIRO 伝統芸能文化創生プロジェクト

文化庁 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

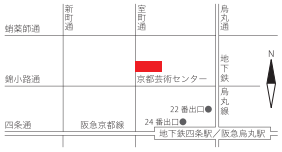
本事業は、令和6年度 文化庁文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）の補助を受けて実施しています。

会場　Access

京都芸術センター　KYOTO ART CENTER

〒604-8156
京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2
TEL：075-213-1000　FAX：075-213-1004
URL：https://www.kac.or.jp/

地下鉄烏丸線「四条駅」、阪急京都線「烏丸駅」22番・24番出口より徒歩5分。
駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。



民俗芸能交流サロン

Folk performing arts Salon

シンポジウムと実演

「民俗芸能交流サロン」は、京都郷土芸能「活性化してやろう」会が主催する会で、郷土芸能の未来の担い手育成および発掘へ向けて、各芸能団体が定期的に集い課題を共有できるように開催しています。今回は、大念佛狂言から「嵯峨大念佛狂言」「千本ゑんま堂大念佛狂言」と「原谷弁財天太鼓」を招いて、課題を共有し芸能の今後の継承について探ります。また、獅子舞をテーマにした演目を披露していただきます。

参加申込方法 Registration

京都郷土芸能「活性化してやろう」会
075-462-3414 ／月～金10:00～17:00

khono@iris.eonet.ne.jp

申込みフォーム
www.imaami.com/salon/

参加申込は、電話・メール・申込みフォームにて

申込みはコチラから

原谷獅子 原谷弁財天獅子舞保存会

原谷弁財天とは

京都市北区にある原谷地区に文治二年より祀られる神社で、ひと時過疎化により御室仁和寺に御神体を預けたものの、昭和二十六年に当時の開拓団により遷座され、改めて原谷地区の氏神、地域に愛される神社として住民により運営されている。毎年十月第三日曜に秋季例大祭として神輿渡御が行われ、祭りの宵宮には太鼓獅子舞の両保存会による奉納太鼓、奉納舞が行われている。

原谷弁財天の太鼓と獅子舞

原谷弁財天奉賛会の有志会員が地域や祭りを盛り上げることを目的に、太鼓保存会と並んで獅子舞保存会を立ち上げた。獅子舞は弁財天の使いとして、地域の様々な人や物の悪いところを咬みとり、舞によって浄化させる。そのため神社の行事や祭礼に随行し、一年を通して住民の健康と御多幸を祈念し舞を奉納している。

原谷弁財天の例祭宵宮での獅子舞

ゑんま堂獅子 千本ゑんま堂大念佛狂言保存会

演目「牡丹獅子」

千本ゑんま堂大念佛狂言とは

引接寺（千本ゑんま堂）境内で毎年5月（1日～4日）に本公演が行われる大念佛狂言。寛仁年間（1017～1020）、引接寺開祖の定覚上人が創始し、鎌倉時代に如輪上人が再興したと伝わる。
鰐口、太鼓、笛で囃すことは他の大念佛狂言と同様であるが、「えんま庁」「芋汁」以外の演目すべてにセリフのあることが特徴。

本公演最初の「えんま庁」と、千秋楽最後の「千人切」は、千本ゑんま堂にのみ伝わる演目。「千人切」後、本堂では観衆が厄除けとして、為朝の金剛杖を頭や体に当ててもらう「お加持」を受けるなど、庶民信仰と深く結びついている。

演目『牡丹獅子』　満開の牡丹に浮かれ獅子が舞う

大名の屋敷の庭の牡丹が満開を迎えました。すると、毎晩獅子がやって来ては、牡丹の花を荒らしてしまいます。困った大名は、太郎冠者に獅子を生け捕りするよう命じます。

太郎冠者は、色々な方法で獅子を捕まえようと試みますが、なかなか捕まえることができず、とうとう取り逃がしてしまいます。命令を果たせず、大名に叱られると困りはてた太郎冠者は・・・。

お問合せ 京都郷土芸能「活性化してやろう」会

〒603-8487　京都市北区大北山原谷乾町118-5
TEL:075-462-3414　mail：khono@iris.eonet.ne.jp
：kyo_traditionalart_kasseika